

キャラクター名	プレイヤー名
崇城 魅智(そうじょう みち)	

シンドローム	バロール ソラリス	ワークス	中学生	カヴァー
オプション		年齢	14 (見た目は12で止まっている)	性別
覚醒	探求	衝動	加虐	初期侵食率
出自	秘密結社	経験	大失敗	邂逅
				29 %
				保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	0	0	1			1	行動値	7
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	4	0	0			4	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:	1		知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
『我を畏怖せよ』	交渉	4r+1	4	0		コンセ+言葉。対象の精神を自分に向けさせ、圧倒する。
『力の終着点』		0	8			魔眼+盾。攻撃エネルギーを自分に引き寄せつつ、引力を強めてそれを飲み込む。
『我に惑え』		0	3			羊。対象の意識を無理矢理自分に引っ張り、手元を狂わせる。
『重き代償』		0	3			暗黒螺旋。瞬間的に自身の引力を強め、近くにいる対象に避けられぬダメージを与える。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
D:古代種	P 傾倒	N 恐怖			
『三千世界』(出自)	P 連帯感	N 隔意			
『創世という目標』(経験)	P 執着	N 悔悟			
『岩永悠太』(邂逅)	P 信頼	N 不信感			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	8	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセ:ソラリス	2	2	メジャー					
効果:	いつもの。							
抗いがたき言葉	1	2	メジャー	視界	単体	対決		
効果:	命中でシーン中対象のあらゆるD-Lv個。							
孤独の魔眼	1	4	オート			自動		
効果:	攻撃対象を自身単体に変更。シナリオLv回。							
魔人の盾	2	4	オート	至近	自身	自動		
効果:	ガード値+Lv*10。シーン一回。							
盲目の羊	1	3	オート	視界	単体	自動		
効果:	対象の判定直前、D-(Lv+1)個。							
暗黒螺旋	1	3	オート	至近	自身	自動		
効果:	白兵攻撃に対してLv*5のHPダメージ。							
黒星粉碎	1	4D10	メジャー	視界	範囲選択	自動	120↑	
効果:	組み合わせ不可。対象に(Lv+1)DのHPダメージ。リアクション不可。シナリオ1回。							
ルーラー	1	6	イニシアチブ	視界	シーン選択	自動	Dロイス	
効果:	ラウンド間、対象のあらゆる判定ダイスを-Lv個。3回/シナリオ。							
快樂の香氣	1		メジャー	至近		自動		
効果:	快樂物質の散布。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「我がこそが——三千世界を喰らいつくし新世界を創る『無限引力』なり！」

今は無き秘密結社『三千世界』の重要幹部を両親に持つ中学生男子(出自:秘密結社)。性格はやや傲慢で生意気。口調が時々仰々しくなりがちだが、どこか世間知らずの少年。ひと目で人を惹きつける美少年であり、中性的な見た目も相まって人気が高い。一人称は基本的に『ぼく』。自分の魅力を分かっているため、女の子に間違えられても喜ぶ。

彼のこれまでの話をしよう。

生まれたときから結社の重要なポジションが約束された運命を持つ彼は、幼少期からその類稀なる力の兆候を見せていた。カリスマ——時にそう謂われるほどに、彼は他人の心を自分に惹きつけた。それがその時点で発症していなかった『ソラリス』の力なのか、はたまた本当に彼の特異な部分だったのかは、今になっては分からない。ただ、彼が明らかにオーヴァードになったのは、12才の時。今から、2年前の話だ。

ここで少し、彼の過ごした秘密結社『三千世界』の話をしよう。『三千世界』はレネゲイドウイルスの力によって世界を一度作り変え、争いのない世界、『最初からオーヴァードと非オーヴァードが共存している世界線』を創世すればよいと考えていた秘密結社だった。『三千世界』にはあるアーティファクトが厳重に保管されていた。それは創始者が振り出し、そして『三千世界』の目的達成の重要な役割を担うものとして奉られていたものだった。そのアーティファクトに、彼は触れてしまった。いや、その言い方は適当ではない。彼は進んで、そのアーティファクトに触れたのだ。

彼は、両親や周りの大人たちからの期待や、自尊心のために、自身の可能性を信じ切っていた。そして、それはあながち間違いではなかった。試した者は皆滅ぼされたとされるかに『適合』したのだ。アーティファクトに秘められた古の力に、適合してしまったのだ。彼はオーヴァードとなった。特殊な力を持った、『古代種』として。(Dロイス:古代種)

彼は自分自身にあらゆる事象を引きつける『引力』を持つようになった。その事象は物理的なものに留まらない。人の心、精神の部分も自分の元に引き寄せるのだ。その圧倒的な引力は地球を想起させ、『三千世界』の目的である「新しい世界の創世」にも適合すると考えられた。結果、『新世の神の子』として今まで以上に崇められるようになった。

それがきっかけとなり、彼は孤独を識ることになる。